



~ 4
2201



明
號 2201
卷



仙洞歌合

寶德二年十月

題

河原景
惠逢總

曉子鳥
和歷年

遠嶺雪

化者

宰相典侍

禁裏

式部卿親王

右近大將實量

左近權帥實雅

少保降空

權中納言實任

二條 公洞

右衛門少輔

權大納言宗繼

少保祐雅

左衛門少輔持季

權中納言實任

藤野深氏遺愛記



のと何れは入るるにけりておぼしき一とておぼし
を以たる侍

二番

大持

二條

おぼしき錦をけりて大井川を流る中や終りて

大

梅察使公保

このころ右様お時ある山河のいづれの水は多かりけり

津門のちりちりにていづれ入路のたうき河のいづれ

おぼしき錦をけりて大井川を流る中や終りて

おぼしき錦をけりて大井川を流る中や終りて

おぼしき錦をけりて大井川を流る中や終りて

水のちりちりにていづれ入路のたうき河のいづれ

おぼしき錦をけりて大井川を流る中や終りて

大井川中流を合流

おぼしき錦をけりて大井川を流る中や終りて

おぼしき錦をけりて大井川を流る中や終りて

おぼしき錦をけりて大井川を流る中や終りて

三番

大

或部卿親王

龍のちりちりにていづれ入路のたうき河のいづれ

大持

大井川中流を合流

おぼしき錦をけりて大井川を流る中や終りて

四番

た持

権太納之宗謙

たに躬桓の... 水... 花... 集... 大... ね...

吹風... 川... 水

七 大幸推師實雅

奔行はり... 花...

たふ... 花...

あ... の... 花...

たふ... 花...

... 花...

五番

た持

沙汰淨宜

かしの河津よりいもむいふふいやくもやぬあけれうやみ

た持

た衛門持持季

かしの河津よりいもむいふふいやくもやぬあけれうやみ

因

たあけのくまふくろりちをさへもはつとさう

くまふくろりちをさへもはつとさう

くまふくろりちをさへもはつとさう

くまふくろりちをさへもはつとさう

くまふくろりちをさへもはつとさう

くまふくろりちをさへもはつとさう

くまふくろりちをさへもはつとさう

六番

た持

権中納言資任

虎乃井中納言

たけのいのをあけのそねぬくほくさう

ゆりまかハたせらさぬくはつとさう

地ふらふらあめくちやそ井河井下この水もいもむい

た

権中納言教孝

いぬやまみあぬ早瀬川つらとあぬはつとさう

漢白

たふらやせ河のから川のそくはひひはつとさう

なまはつとさう

葉のたけり別くさうんさうあつとさう

たふらやまらひつとさう

尾花井中納言

たのむもむのあさくぬ本るくくをさあた
ふのさくくけわりなつらあをなを
こ心こさうとこくも科まう一様や

七番

た持

権中納言

さうかふさばあまのさう川やまのほをさむのさあ

七番

侍持為

かあまのさあくさああく昔はくあああ
た女水海うぬのさくつてさくうひんが
さくさくさくさくさくさくさくさく
おくさくさくさくさくさくさくさく

番

た持

女衛門侍雅親

本川さくさくさくさくさくさくさく

七

衆議政賢

さくさくさくさくさくさくさく

く

園白

たけのこらしんをきて板木の枱を煮せりしは竹の心か

かつらぎをてゆりまきくさくさしぬしにうきわらひ

くちやうゆらんたけのこ守二のうさくさくさしぬし

後りゆりま

花半のつた

たけのこつたしんをきてせしめしゆりまのこえんある

まじりゆりまは枱のこえんあるゆりまは

すくすくゆりまをちりしゆりまをゆりまは

ゆりまはゆりまをゆりまはゆりまはゆりまは

葉のゆりまはゆりまはゆりまはゆりまは

ゆりまはゆりまはゆりまはゆりまは

九番

た

花甲のつた

山川ゆりまはゆりまはゆりまはゆりまは

太 播

たけのこつた

冬の家山風吹く川ゆりまはゆりまは

たけのこ金葉ゆりまはゆりまはゆりまは

ゆりまはゆりまはゆりまはゆりまは

ゆりまはゆりまはゆりまはゆりまは

花半のつた

たけのこゆりまはゆりまはゆりまは

ゆりまはゆりまはゆりまはゆりまは

ゆりまはゆりまはゆりまはゆりまは

ゆりまはゆりまはゆりまはゆりまは

く

九持

右道中納言右衛門

は乃を錦も今龍田川のまの川の流しはふも

大借

右道中納言右衛門

山陰のりやまのり水は流河神つとてうはうは

大借

たたれちのり源のりたのりたのりたのり

小のりつとてうは

飛鳥のり

たたれちのりつとてうは

十三番

九持

右道中將季春朝臣

るれははつとてうはのりつとてうは

大借

右道中納言右衛門

ちのりははつとてうはのりつとてうは

大借

たたれちのりつとてうは

のりつとてうはのりつとてうは

ふしつとてうはのりつとてうは

まのりつとてうはのりつとてうは

やまのりつとてうはのりつとてうは

飛鳥のり

たたれちのりつとてうは

事つとてうはのりつとてうは

七の持

七番

く
た
持

右近少将之燈籠下

山川や木々く映く 色のちかきうはなをさう
七 橋 浄下寛孝

あはれあまのほろの福氣 ちかきうはなをさう
園白
たふまきのあまの福氣 ちかきうはなをさう
むなをさうはなをさう
あまの福氣 ちかきうはなをさう
あまの福氣 ちかきうはなをさう
あまの福氣 ちかきうはなをさう
あまの福氣 ちかきうはなをさう

徳川中納言入道
お川のせまき ちかきうはなをさう

ま
り
つ
や

十五番

た
持 持

氏部権大補行有

おののけい ちかきうはなをさう

七

権入式部兼源氏神

橘原のしらあまの神 ちかきうはなをさう
園白
たふまきのあまの福氣 ちかきうはなをさう
あまの福氣 ちかきうはなをさう
あまの福氣 ちかきうはなをさう
あまの福氣 ちかきうはなをさう
あまの福氣 ちかきうはなをさう

十六番

暁千鳥

た
持 持

宰相典侍

くさくさしたるものも鳥氣かしてものさしやうきあけの候

七

式部錦親王

おきりおきりしつるものもけしきあけのあつた

園白

あ育れおたはつたの月と影を昇りては沖瀬の宮に

このさうを破の糸まゝに眼茶是れに陣屋茶取子

龍舟中池交尾

去砂れおけりてそよよとけしきあけのあつた

ゆは月もはるかにあつたけしきあけのあつた

くさくさ

十七番

大持

二條

おきりおきりしつるものもけしきあけのあつた

七

右近大納言實量

ゆは月もはるかにあつたけしきあけのあつた

園白

かきつるものもけしきあけのあつた

くさくさ

龍舟中池交尾

去砂れおけりてそよよとけしきあけのあつた

ゆは月もはるかにあつたけしきあけのあつた

くさくさ

十八番

大持

接奏使二條

ゆは月もはるかにあつたけしきあけのあつた

七

權中納言資仁

さうねをけいこも海乃浦のまの月よりあふまらう

関白 けい首 後 獨一すまのうらまや 侍人 大納言 といふ

いせねうらや侍人 又 可為持

花言并他言入道 大正海の実まの月の光りあふまらうあふまらう

所やいふいふの思ひも侍もや 大月と侍
はははちやれ心うやふふも入るまらうまらう
の月と侍もつらうもまらう侍もつらう明の夜に人
事やいふも是侍もつらう侍もつらう

十九番

大持持

権大納言宗継

さうねをけいこも海乃浦のまの月よりあふまらう

大

権中納言公總

さうねをけいこも海乃浦のまの月よりあふまらう

関白 けい首 後 獨一すまのうらまや 侍人 大納言 といふ

いせねうらや侍人 又 可為持

二十番

大持持

権大納言宗継

さうねをけいこも海乃浦のまの月よりあふまらう

大

権中納言公總

さうねをけいこも海乃浦のまの月よりあふまらう

しつり揚言さくやゆらん

花より中納言入道

ふのこころしむらふ心むらむらにらぬはゆれり
まの古流もすむらむらにらぬはゆれり

三番

たが

侍辰持書

ものほふ心のひそくしむらむらにらぬはゆれり

七

七衛門督雅親

まの月をさみふ浦地をまふしつれま別てゆ

関白

たきのほふ心のひそくしむらむらにらぬはゆれり
のほらむらむらにらぬはゆれり
たきのほふ心のひそくしむらむらにらぬはゆれり

花より中納言入道

ものほふ心のひそくしむらむらにらぬはゆれり

月をさみふ浦地をまふしつれま別てゆ

あはれむらむらにらぬはゆれり

三番

たが

侍辰持書

あはれむらむらにらぬはゆれり

七

侍辰持書

あはれむらむらにらぬはゆれり

関白

あはれむらむらにらぬはゆれり
あはれむらむらにらぬはゆれり
あはれむらむらにらぬはゆれり

花守中納言

たのむえのいふくあはれをひのこしむとて
ちかきふしけりてけりし七文をれせりて
とて候りまて候りてしるす

二十番

た ち

花守中納言

たのむえのいふくあはれをひのこしむとて

七

たのむえのいふく

たのむえのいふくあはれをひのこしむとて

たのむえのいふくあはれをひのこしむとて

花守中納言

たのむえのいふくあはれをひのこしむとて

二十番

た ち

花守中納言

たのむえのいふくあはれをひのこしむとて

七

花守中納言

たのむえのいふくあはれをひのこしむとて

たのむえのいふくあはれをひのこしむとて

たのむえのいふくあはれをひのこしむとて

たのむえのいふくあはれをひのこしむとて

花守中納言

たのむえのいふくあはれをひのこしむとて

たのむえのいふくあはれをひのこしむとて

あさしくおふき

二十五番

大 務

系議政賢

有の勢いなりては川はせしむるもいふもいふ

大

散位何志期

浦見しをの勢いなりては川はせしむるもいふもいふ

大

散位何志期

心安とておれぬはれとては川はせしむるもいふもいふ

けりては川はせしむるもいふもいふ

けりては川はせしむるもいふもいふ

けりては川はせしむるもいふもいふ

けりては川はせしむるもいふもいふ

けりては川はせしむるもいふもいふ

けりては川はせしむるもいふもいふ

けりては川はせしむるもいふもいふ

けりては川はせしむるもいふもいふ

けりては川はせしむるもいふもいふ

けりては川はせしむるもいふもいふ

けりては川はせしむるもいふもいふ

けりては川はせしむるもいふもいふ

けりては川はせしむるもいふもいふ

けりては川はせしむるもいふもいふ

けりては川はせしむるもいふもいふ

けりては川はせしむるもいふもいふ

けりては川はせしむるもいふもいふ

けりては川はせしむるもいふもいふ

けりては川はせしむるもいふもいふ

けりては川はせしむるもいふもいふ

けりては川はせしむるもいふもいふ

二十六番

大 務

系議政賢

有の勢いなりては川はせしむるもいふもいふ

有の勢いなりては川はせしむるもいふもいふ

有の勢いなりては川はせしむるもいふもいふ

有の勢いなりては川はせしむるもいふもいふ

有の勢いなりては川はせしむるもいふもいふ

有の勢いなりては川はせしむるもいふもいふ

千鳥を極むつゆの...はなれたくるあまの...
園白

たれを...の...
園白

...
園白

...
園白

...
園白

...
園白

二十七番

...
園白

...
園白

...
園白

...

...
園白

園白

...
園白

...
園白

...
園白

...
園白

...
園白

...
園白

...
園白

二十八番

...

...

...
園白

...

...

あつ月の夜にきくつらん白鳥の海にわたるはつたのこゝろ
白鳥のこゝろにわたるはつたのこゝろ
あつ月の夜にきくつらん白鳥の海にわたるはつたのこゝろ
あつ月の夜にきくつらん白鳥の海にわたるはつたのこゝろ
あつ月の夜にきくつらん白鳥の海にわたるはつたのこゝろ

二十の番

た
おお

た
おお

あつ月の夜にきくつらん白鳥の海にわたるはつたのこゝろ

た

た
おお

あつ月の夜にきくつらん白鳥の海にわたるはつたのこゝろ
あつ月の夜にきくつらん白鳥の海にわたるはつたのこゝろ
あつ月の夜にきくつらん白鳥の海にわたるはつたのこゝろ
あつ月の夜にきくつらん白鳥の海にわたるはつたのこゝろ
あつ月の夜にきくつらん白鳥の海にわたるはつたのこゝろ

二十の番

た
おお

た
おお

あつ月の夜にきくつらん白鳥の海にわたるはつたのこゝろ
あつ月の夜にきくつらん白鳥の海にわたるはつたのこゝろ
あつ月の夜にきくつらん白鳥の海にわたるはつたのこゝろ
あつ月の夜にきくつらん白鳥の海にわたるはつたのこゝろ
あつ月の夜にきくつらん白鳥の海にわたるはつたのこゝろ

園白

五首とてしるも鳥の志とて...
ろくありし事のはらけり...
久しうわたりて...
世にわたりて...
たれのおもひ...
しゆるをたて...
明るの月...
結とて...人

三十一番

遠嶺雪

大橋

二條

おもしろき...
おもしろき...
おもしろき...

七

少派社雅

ゆゑに...
たうふたげ...
わが顔の...
たうふたげ...
たうふたげ...
たうふたげ...

三十二番

大橋

宰相典侍

戸ひ...
七

侍娘持方

しる...
しる...

園白

たふさくさつほくく 宮入りともくく けしきく けしきく
花さくく 雲河敷く けしきく けしきく けしきく
たふさく あり けしきく けしきく けしきく けしきく
~~~~~ 優さく けしきく けしきく けしきく けしきく

三十三番

た 務

式部弼親王

けしきく けしきく けしきく けしきく けしきく けしきく

た 務

法下亮孝

宮入り けしきく けしきく けしきく けしきく けしきく  
園白  
けしきく けしきく けしきく けしきく けしきく けしきく  
~~~~~ けしきく けしきく けしきく けしきく けしきく

ろ 色 ち り ぬ や

源白

たふさく けしきく けしきく けしきく けしきく けしきく
~~~~~ けしきく けしきく けしきく けしきく けしきく

三十三番

た 務

格察使公保

けしきく けしきく けしきく けしきく けしきく けしきく

た

持大納言宗継

園白  
けしきく けしきく けしきく けしきく けしきく けしきく  
~~~~~ けしきく けしきく けしきく けしきく けしきく

けしきく けしきく

源白
けしきく けしきく けしきく けしきく けしきく けしきく

程本三巻三十一番了と信じて大の務りこそは也

三七番

大持

沙汰淨宣

身たるの行月と云うこの光りたる心室の色れ

七

大直中納言朝臣

よき女よつくなの心をくさるるふく雪うりし向

園白

たるをうこの光もたはし海やうらわせたくな

る説書并勅名入あつり人又まきく持とよへ

大初説書并勅名入の女字優ゆしこいゆりたる光りたる宮の

色あつりひかりはせし務りてはつ

三八番

大持

大直中納言持事

ゆりたる光りたる

七

大直中納言朝臣

すむ里の木の末の光りたる

園白

たる光りたる

こゝあつりひかりはせし務りてはつ

大七説書并勅名入あつりひかりはせし務りてはつ

三九番

大持

大直中納言朝臣

時あつりひかりはせし務りてはつ

七

大直中納言朝臣

かゝるの風はつれもなからむやつらき人の身も人

関白 友がれは心づらうおかしき事よや

鳥羽中納言八景 大和はもろくなくもいふもなほとせむらひを

やむはるを待てん

早番

大持

権中納言之綱

さういふのなりきりきり海ありてはむらさきも暗

七條

大納言有後初代

夕日さし来りてもさかたけなくもあやうきなりきり

関白

大守さきこふか〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

おのれはひの心をさかたけなくもあやうきなりきり

とてさうたけなくもあやうきなりきり

いかにゆきあや

鳥羽中納言八景

大七人持方とてさうたけなくもあやうきなりきり

早番

大勝

春議政賢

さういふのなりきりきり海ありてはむらさきも暗

大

兵部權大納言行秀

まじりては心づらうおかしき事よや

関白

大守さきこふか〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

おのれはひの心をさかたけなくもあやうきなりきり

とてさうたけなくもあやうきなりきり

しらべやとけりて都乃心ひらきけり一首の歌
そはゆめやうたの姿たまたまなり
花の御三巻
け番人あふれりて 雪の科しや

早三番

大 指

常田安守内親

しらべやとけりて都乃心ひらきけり一首の歌

大

権太中弁親長朝臣

しらべやとけりて都乃心ひらきけり一首の歌

関白

大紙のまじりてけりてたぬやうにけりて

くはらげりて

花の御三巻

いつれあはれけりてけりてけりて

早三番

早三番

大

敦信保建朝臣

昔城やうたのまじりてけりてたぬやうにけりて

大 指

右近中将實右朝臣

あはれやうたのまじりてけりてたぬやうにけりて

関白

たやうとまじりてけりてたぬやうにけりて

たやうとまじりてけりてたぬやうにけりて

くはらげりて

花の御三巻

たやうとまじりてけりてたぬやうにけりて

くはらげりて

川合はるる神もいあせの所さめし
首の洞川深しはくはるる川もさるる
さくさくはるるやあつみり神もいとおか
とすしゆをいん
とすしゆをいん
大士の法りさるるいんをいん持るるや

五十一番

大括

鳥居政賢

くもすあはれさるるの氣しゆもさるる
大括
水さげさるるはくは水の鳴るるさるる
たみり事しゆれはるるはるるたさるる池

くもはるるやさくは二つさくはるる
くもはるるはるるさくはるる
大括
たさるるあはれはるるさくはるる
さるるはるるさくはるる

五十二番

大括

飯佐伊忠朝臣

いんさるるあはれはるるさくはるる
大括
さくはるるあはれはるるさくはるる
大括
さくはるるあはれはるるさくはるる
さくはるるあはれはるるさくはるる

乃夢とてなりて居るにこそいふもあはれなりてまじ
けよりののこりて古人のあはれなりとてまじはれりてや
古きゆかりのむすこひの葉の詞のてあはれはむす
こひのゆかりのわたりし夢の笑ひまじはれりてや
あはれあはれとこそいふれどもこのむすこひのまじ
こゝろのゆかりのあはれ

権中納言入道

七言の笑ひまじはれりてや

たのしみもゆかりのあはれ

五十二番

七言

権中納言教書

えうとあはれも根もあはれなりて思ひてこのあはれ

七言

たのしみもゆかりのあはれ

相板乃其の清水の清くも結ひてあはれなり

関白

七言のあはれなりて清水の清くも結ひてあはれなり

能登舟中納言入道

たのしみもゆかりのあはれ

事なかりてゆかりのあはれ

五十三番

七言

権中納言之綱

さうかゝるゆかりのあはれ

七言

権中納言教書

ゆかりのあはれ

大 関白
たてまつるるあまのまゝに
たてまつるるあまのまゝに

あまのまゝに

たてまつるるあまのまゝに

たてまつるるあまのまゝに

辛五番

大 務

大 迎少将之澄外

たてまつるるあまのまゝに

大

大 迎少将之澄外

たてまつるるあまのまゝに

関白

たてまつるるあまのまゝに

たてまつるるあまのまゝに

たてまつるるあまのまゝに

たてまつるるあまのまゝに

辛六番

大 務

侍 長持

たてまつるるあまのまゝに

大

侍 長持

たてまつるるあまのまゝに

関白

たてまつるるあまのまゝに

たてまつるるあまのまゝに

たてまつるるあまのまゝに

たてまつるるあまのまゝに

此等并中納言入道

此等のあつうの實し給事不分明也

平一番 松應年

丸

沙弥祐雅

和守のうらねま平此老のほけりうあはねをりて

七拾

法下 竟春

せらうやういそ人白川のほりたうも何のいは

園白

たの差海のをうそらうの算とそく右白川のほ

七十のまいとけりう介の揚事二つとそらへた

つこの番懐けりうここの志をそらうまやとわかれは

つははらりたき能とゆるい深のむとそらへた

とてゆるうやうとそらへた地をそらへた

た七の拾乃字をつけりて

此等并中納言

た白川のほりたうとそらへた人そらへたといふた

あつうとそらへた人

平二番

た拾

式部卿王

志代のりまをうとそらへたうとそらへた二つとそらへた

七拾

権中納言と恩

律代らありとまけりてとそらへたうとそらへた浦のたえ

園白

たあそと二とそらへたといふとそらへた人たえ

とそらへた人

此等并中納言

た七の代のりまをうとそらへたうとそらへた

女入を申すは作のひに花のよき作は持てしや

六三番

た 結

宰相也侍

君あつてこれかき人查りてのしるの御つりてせし

七

大宰権師実雅

ひらきまを枝まを公乃れ了らん年々増しれぬ

園白

君の枝まを公乃查あゆみ木たきま終りやれぬ

のみまを枝まを公乃れ了らん年々増しれぬ

能事申言人信

た文いひてまを公乃れ了らん年々増しれぬ

えまを公乃れ了らん年々増しれぬ

六四番

た 拵

按察使云保

けりてまを公乃れ了らん年々増しれぬ

七

七衛門守雅親

おもしろまを公乃れ了らん年々増しれぬ

園白

た七まを公乃れ了らん年々増しれぬ

やまを公乃れ了らん年々増しれぬ

能事申言人信

た七まを公乃れ了らん年々増しれぬ

しらまを公乃れ了らん年々増しれぬ

六五番

た 拵

右近右衛門実量

ゆきまを公乃れ了らん年々増しれぬ

七

権中納言資任

むしほしめぬしりき法にさきいしむせりみうの赤
陶白
信玄のねりり。赤威をうけりやとくく持まて
とて年病言入色
あつしける信玄のねりせりいしむせりいしむせり
まうくけり

六六番

たお

権大納言宗隆

あひそりしむしりき法にさきいしむせりみうの赤
陶白
信玄のねりり。赤威をうけりやとくく持まて
とて年病言入色
あつしける信玄のねりせりいしむせりいしむせり
まうくけり

七

少左衛門

いよふしむしりき法にさきいしむせりみうの赤
陶白
信玄のねりり。赤威をうけりやとくく持まて
とて年病言入色
あつしける信玄のねりせりいしむせりいしむせり
まうくけり

七

少左衛門

いよふしむしりき法にさきいしむせりみうの赤
陶白
信玄のねりり。赤威をうけりやとくく持まて
とて年病言入色
あつしける信玄のねりせりいしむせりいしむせり
まうくけり

六七番

たお

権中納言資任

むしほしめぬしりき法にさきいしむせりみうの赤
陶白
信玄のねりり。赤威をうけりやとくく持まて
とて年病言入色
あつしける信玄のねりせりいしむせりいしむせり
まうくけり

七

少左衛門

いよふしむしりき法にさきいしむせりみうの赤
陶白
信玄のねりり。赤威をうけりやとくく持まて
とて年病言入色
あつしける信玄のねりせりいしむせりいしむせり
まうくけり

善
あ育又を孫芬くや
善中納言入道

七方りいりやるあくはつひのひをりあつての風を
井のねのまきとまなうまゆへはつひのたの猪に
つりち

卒九番

た 播

権中納言教孝

十々の華あはるまきうのくこのまきあはるまき

た 播

たを衛時右後朝臣

くまはるまきうはるまきくまはるまきうはるまき

園

た七女首安河とうくまはるまきうはるまき

あはるまきうはるまきうはるまきうはるまき

善中納言入道

た七上れまきうはるまきうはるまきうはるまき

つるまきや

卒九番

た 播

右衛門尉

たひまきうはるまきうはるまきうはるまき

七

右近中将経秀節下

あはるまきうはるまきうはるまきうはるまき

園

このあはるまきうはるまきうはるまき

つるまきや

善中納言入道

た七上れまきうはるまきうはるまき

月とまきうはるまきうはるまき

ゆくゆくは縁ごと

七十一番

た 拾

た清の拾

限りてはつるの浦のまがしりてはつる人
七 友信の拾

了りてはつるの浦のまがしりてはつる人

た 拾 関白

七 拾 た 拾

た 拾 た 拾

た 拾

七十二番

た 拾

た 拾

た 拾

七 拾

た 拾

た 拾

た 拾

た 拾

た 拾

七十三番

た 拾

た 拾

た 拾

七

た 拾

君氏に書し奉らざりしをばつたのまはらひしに〇の松一政と

園白 大松之のふらふのりこいんせうしんあはれ

作りたふとてふりまはらひしに〇の松一政と

掃部を編よるにいほあしと

龍舟中納言 大の代とふらふのりこいんせうしんあはれ

いこもやゆらんたふらふのりこいんせうしんあはれ

七十二番

たお

持大中の親長部下

いこもやゆらんたふらふのりこいんせうしんあはれ

た

持大中の房の部下

ねえのふ代やふらふのりこいんせうしんあはれ

園白

た林代とふらふのりこいんせうしんあはれ

いこもやゆらんたふらふのりこいんせうしんあはれ

いこもやゆらんたふらふのりこいんせうしんあはれ

龍舟中納言

いこもやゆらんたふらふのりこいんせうしんあはれ

七十二番

たお

持大中の室七部下

いこもやゆらんたふらふのりこいんせうしんあはれ

た

持大中の室七部下

いこもやゆらんたふらふのりこいんせうしんあはれ

いこもやゆらんたふらふのりこいんせうしんあはれ

いこもやゆらんたふらふのりこいんせうしんあはれ

右近十將三隆鈔長
氏部持大補行表

勝三 勝四

持二 頁一
持三 頁二

法下堯孝
卷八部並源改仲

勝三 勝四

持二 頁一
持三 頁二

明治十一年四月廿四日
藤野 喜氏寄附

